

市民スタッフ (G-free) 紹介

赤塚 昭彦



3年前、ハートフルスクエア G 内で開催された「ボランティア活動」の説明会に参加したのが (G-free) 加入のきっかけです。演劇や映画に興味を持っていたので、これなら役に立てそうだと思って応募しました。以来、今日まで「市民スタッフ事業」や「文化会館の主催事業」に参画してきました。

一昨年の「伊豆の踊子」昨年の「風雲児織田信長」の企画運営には楽しく参加できました。作家 川端康成や織田信長、岐阜における足跡を辿った映像作りはとても楽しい作業でした。G-free のもう一つの活動に「ぎふアジア映画祭」があります。私は深く参加できませんでしたが、映画好きな人には最初から参加してほしい企画です。みんなでわいわいがやが

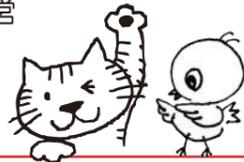
や言いながら作品を選んでいきます。動機は単純でよいのです。映画が好きだ！、思っている人は絶対 G-free に加入して市民スタッフの活動をやりましょう！大勢の方の応募を待っています。



岐阜市民会館、文化センターで、活動する文化ボランティアを募集

自分に合ったスタイルで、やりたい事、出来る事から文化ボランティアを初めてみませんか？

- * 自主事業公演当日、チケットもぎり、アンケート配布、会場案内、会場保安員など。
- * 市民スタッフ企画・ぎふアジア映画祭の企画・運営
(作品選定・企画・広報・HPなど)
- * カメラ・ビデオなどの記録撮影
- * イラストの作成 (活動誌など)



文化会館自主事業応援隊募集！！

岐阜市民会館、岐阜文化センターの主催事業をPRしていただく応援隊としても活動しています。ポスター張りやチラシ配り、SMSへの参加や、身近な方々への口コミ宣伝など、様々なスタイルで、岐阜市に文化を広めてみませんか？



岐阜市民会館

〒500-8812
岐阜市美江寺町 2 丁目 6 番地
TEL 058-262-8111 FAX 058-262-8114
<http://gifu-civic.info>



岐阜市文化センター

〒500-8842
岐阜市金町 5 丁目 7 番地 2
TEL 058-262-6200 FAX 058-262-6229
<http://gifu-culture.info>



第16号

平成29年3月31日

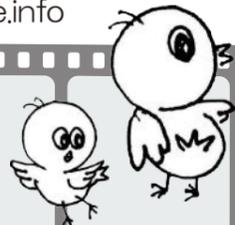
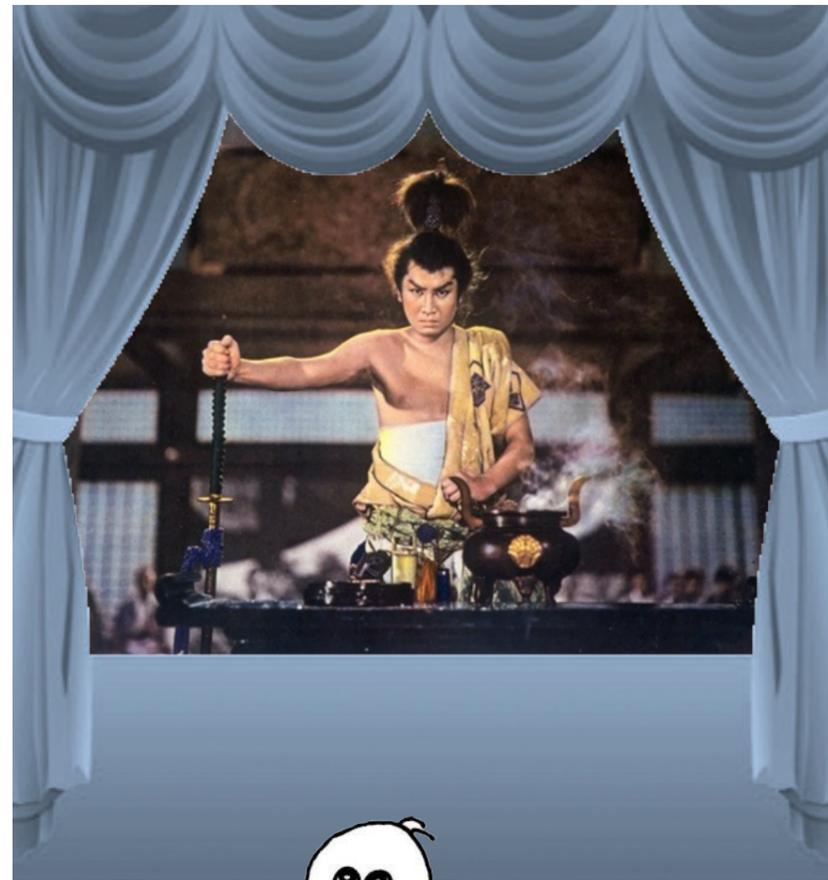
岐阜市民会館・岐阜市文化センター 市民スタッフ活動報告誌



G-free

第16号

平成29年3月31日



活動誌編集 大江 繁美、窪田 百代、坂口 佳子
加藤 茂子 (イラスト)





第340回市民の劇場

映アギ 画ジ 祭ア

「幕が上がる」を観て 市民スタッフ 近藤 啓司

ももいろクローバーZ（以降：ももクロ）が主演？キャピキャピした映画だろうとの思いがあった。市民スタッフの方々からいい映画だから是非見るべきだと言われ、見ることに決めた経緯もある。いざ映画が始まるやいなや、セリフは棒読み演技は下手。だが徐々にセリフに情熱がこもり、演技にも熱が入る。また内容も素晴らしかった。そして感動も起き始めた。周辺の方々も感動している様子が見受けられた。この「幕が上がる」を短く表現するとすぶの素人が演劇と真剣に戦い成長していく。役を演ずるのではなく各々が高校生本人になりきっている。といえるのではないだろうか。だが、ももクロの歌が途中で流れる事には賛否評論がある。皆様も機会があれば是非見てもらいたい一作であろう。



平成 28 年 11 月 5 日 (土)
～ 12 月 4 日 (日)

ゲストトーク俳優志賀廣太郎氏を迎えて～

市民会館に着かれた時、えっ、こんな小柄でほっそりした方だったんだ。そして好々爺 m()m でもある。いざスポットライトの下ではオーガ何時かにかじみ出ておりやはり名優である。幕が上がるでのコメントでは、”最初こんな女の子達に演技なんか出来るのかと思った。最初は酷かった。だがどんどんうまくなっていった。皆さんもそう思ったと思います。そしてとてもいい映画になりました。原作も読んで頂ければと思います。”と言われた。その時、私の思いと違わずやはりそうなんだと大きく頷く事に気付いた。まCM やドラマに話が進み参加者の笑いを誘う内容もあり、盛り沢山の話聞く事が出来、あっという間に時間が過ぎ去り終了となる。何か暖かさが通り過ぎるようなそんなひと時であった。



先生役で出演の志賀廣太郎さん演劇の話やももクロとの思い出話など楽しいトークを聞かせていただきました。

タイ文化講座『タイの映画～アピチャッポン・ウィーラセタクン監督とその作品』に参加して 市民スタッフ 大江 繁美



タイ文学者の宇戸清治さん

2016年11月27日、注目のタイ映画「光りの墓」がぎふアジア映画祭でも上映されました。東京外国語大学名誉教授、タイ文学者の宇戸清治さんをお招きして色々なお話を伺うことができたこの日。講座はタイ映画の過去や現在活躍されている監督とその作品の紹介から始まりました。その中にはかつて映画祭で上映した「少年義勇兵」のお話もあり、懐かしく当時を思い出しました。10数年前、スタッフになり資料作成など初めて担当した作品です。…時間があつてアピチャッポン監督と作品については深く詳しく聞かれず少し残念でしたが、タイの人々の王室に対する気持ちやタイの現状など、映画だけでなくタイという国について知ることが叶い、とても興味深く、映画「光りの墓」にはいくつもの思いが込められているんだということも僅かですがわかったように思いました。あらためて、アピチャッポン監督から目がはなせなくなりました。

ぎふアジア 映画祭 特別 企画



「花、香る歌」韓国伝統音楽ノリパソライブ 「オマールの壁」広川隆一バラスチナ写真展 「岸辺の歌」音楽担当：江藤 直子さん プロデューサー：松田 広子さん

初めて市民スタッフに参加して 市民スタッフ 矢野 匠

去年の夏頃から市民スタッフとして、ぎふアジア映画祭の活動に参加させていただいています。以前市民スタッフだった友人にすすめられたことが、参加のきっかけでした。参加し始めた頃にはすでに上映作品が決まっていたため、作品選考には携わらなかったのですが、映画祭のチラシに作品紹介の文章を書くことになり、苦労もありますが、楽しくやらせてもらいました。今回は作品選考から関わらせていただくのを楽しみにしています。映画祭に携わる市民スタッフで私が最年少のようなので、もっと若い方の参加もお待ちしています。



市民スタッフ研修① あいち国際女性映画祭交流会 市民スタッフ 葛谷 春菜

2月12日にウィルあいちで行われた研修に市民スタッフ等8人で参加してきました。他の映画祭主催の方（あいち国際映画祭）と交流する貴重な機会であり、今後の「ぎふアジア映画祭」などのイベントにおいて参考になる意見交換ができた場となりました。また、規模は違えど同じ悩みを抱えていることを知れたり、市民スタッフが協力して作る「ぎふアジア映画祭」の魅力を改めて実感しました。私は初めての参加でしたが、皆さまの映画に対する愛情を強く感じる事ができ、今後の活動が楽しみになりました。



岐阜の信長公にちなむ短編映像の作成について 市民スタッフ 中村三郎

今年は、信長公が岐阜に入城して450年目の節目の年になり、岐阜市では大規模なイベントが企画されています。市民スタッフもそれを受け、プレイベントで何か・・・と検討しました。その結果 昨年12月に文化センターで風雲児「織田信長」を上映しました。映画の上映に際し、岐阜市の信長公にちなむ場所を短編映像で紹介することになりました。歴史通を自認しているので、私がシナリオを作成することになりました。撮影に入るまでに多くの困難がありました。ボランティアが中心になるので、私や撮影のNさんや協力する市民スタッフの日程調整が難航しました。有名なS寺であれば市の観光関係や文化財関係であれば、日頃の付き合いの中で協力を求めるのも楽であったでしょうが、初顔の市民会館では事業の目的や趣旨の説明などが最初に求められました。文化財が寄託されている場合は、所有者から撮影の同意を得て寄託先の市歴史博物館に取材許可を得て撮影するなどの著作権のクリアの課題がありました。上映時間では十分にも満たないですが、撮影場所が多く延6日の撮影テ



濃姫役：香川京子さんをゲストに迎え当時のお話や、出演してきた作品への思いを、お話ししていただきました



長岡宗生先生によるうたごえ広場 歌詞を映しながら歌います!! 多くのお客様に来館いただきました 市民スタッフで撮影した映像

本番日の、市民スタッフの活動

市民スタッフ事業を企画し
会議や準備を重ね
本番を迎えます!!



チケットもぎりや、お客様の誘導 記録映像・写真の撮影 「鼻歌」出演 岐阜出身 桜木梨奈さん・尾関伸嗣さん ダンスパフォーマンス Legend☆TAKAANKI ナンバー

岐阜市歴史博物館 ボランティア会報に市民スタッフ事業の記事を載せていただきました!

今年は織田信長の岐阜入城から450年という節目の年になります。日本の歴史に詳しくても、少し勉強してみようかと、興味が湧いてくる年です。折しも12月17日、18日と中村錦之助主演の東映映画「風雲児 織田信長」の上映会が岐阜市公共ホール管理財団・岐阜市主催により、岐阜市文化センターで開催されると聞き出掛けました。1959年に製作されていますが、保存がよく大きなカラー画面に映し出される信長と、香川京子演じる濃姫、若々しく凛々しい姿はどちらも大変魅力的でした。映画は「美濃のうつけ大名」という異名をとった信長が、5千ほどの不利な兵力をもって、2万5千の兵力を誇る今川義元の軍を打ち破るクライマックス、いわゆる桶狭間の合戦をめぐる攻防が中心に描かれ見応えがありました。信長の「うつけ」を諷めて自害する家老と死を嘆く信長、おのれの未熟のために重忠を失い詫言する信長、錦之助の演技力はもちろんですが、彼の美しく響きわたるような声がとても印象的で、このように澄み切った美声の俳優であったかと改めて耳に残りました。原作が山岡荘八であったので「織田信長」五巻のうち、桶狭間の巻と題する第二巻を読みました。小説と映像は、描写の方法も内容も当然ながら別の芸術であり、それぞれの良さを感じました。

市民スタッフ研修② 岐阜大学 林 正子 先生 市民スタッフ 坂口 佳子

岐阜大学で岐阜に関係する文学に詳しい林正子先生に、岐阜市にゆかりのある作家について「文学における〈場所の力〉」と題してお話をお聞きしました。幼少の頃に過ごした故郷の自然、歴史、風土は作家に大きな影響を与え、とりわけ故郷を題材にした作品には色濃く表れます。今回は岐阜市鷺山出身の作家、森田草平を取り上げ、故郷岐阜の作家への影響などについて熱く語っていただきました。森田は作家であるより、平塚らいてうとの心中未遂事件で世間的に知られるようになりましたが、明治42年に漱石に勧められて書いた告白文学『煤煙』を東京朝日新聞に連載することで作家としての社会復帰を果たしました。森田草平の名前は聞いたことがあっても作品は読んでいなかったため、これを機会に読んでみたくになりました。事業企画のための研修という趣旨をご理解いただいた林先生からは、岐阜県出身の他の作家についても教えていただき、これからの活動に参考となる、充実した研修となりました。

